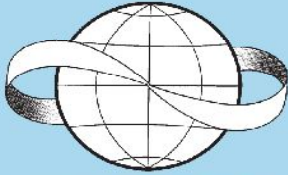


ヴェーナス通信

Venous (静脈) Venus (護美の女神)



第54号

商標登録第 4882482 号

発行 東多摩再資源化事業協同組合
理事長 紺野武郎 編集長 吉浦高志
東京都東村山市久米川町1-16-18
TEL: 042-395-9788
FAX: 042-395-9787

東多摩再資協のブランドカ

七月より製紙メーカーから相次いで古紙価格の値下げが発表された。かねてからの円高の影響もあって輸出価格も低迷しており、回収コストの最低基準としてきた日経相場八円も下回る状況だ。仕入れがゼロか逆有償になるかの瀬戸際で我々回収業者も身を削って仕事を守っていかなくてはならない。景気や流行に関わらず、人間が活動する限り再生資源物は、廃棄物とともに発生する。我々資源業界の仕事は、『原料としての再生資源の供給』という側面と『ごみの減量と資源リサイクルの推進』という両面を担っており、原料の相場変動や需給動向に関わらず、発生した資源物は一〇〇%再生処理するのが使命である。

とところが、市場というの中々うまくいかないもので、相場が高く需要が多いときは資源物の発生量が少なく(引き合いが多く、発生する数量が分散する)、逆に相場が下がって需要が少ないと、資源物もだぶついてしまう傾向がある。『原料の供給』という面では、我々の業界は需給バランスを調整する機能を担っており、在庫をして出荷を抑制したり、代納と言っ

て他社から買い付けて出荷量を補てんする。この観点からすると、問題となつている『古紙の持ち去り』や『不当な高値入札』は安易な需給調整と見ることも出来る。『明らかな横取り行為である』古紙の持ち去り』は、各地で横行しているが、需要が多く相場が良いときは特に増加する。いいものだけがいいときだけ余所から調達するわけだから、地域のリサイクルを守っている我々からすれば放置するわけにいかない。

直言拝聴

東南アジアにおけるリサイクルの「可能性」

ジャーナリスト 瀬戸 義章



ニューヨーク発のビデオニュース、「ロケットブーム」に「ケニアを救う企業」として取り上げられ、注目を集めたのは、プラスチックリサイクルの事業でした。この会社は、街にあふれるプラスチックゴミを集め、土木用の資材にリサイクルしています。なんてエレガントな社会問題の解決方法なんだと評判になりました。

発展途上国では、経済発展に伴い、おびただしい量のゴミが発生しています。そして、その「ゴミ」を「資源」としてとらえて、ビジネスチャンスをつかんだり、地域活性化のために役立てたりする動きが各地で広がっています。

わたしは、2010年末から2011年2月にかけて、東南アジアのリサイクル事情取材してきました。この記事では、私が実際に歩いた国々で、実際にどんな取組がなされているのか、その一部を紹介します。

さて、そもそも東南アジア諸国では、いったいどれほどのゴミが発生しているのでしょうか。タイの統計を見ると、首都バンコクでは1日におよそ8700トンのゴミが発生しています。これは一人当たり換算すると約1キログラム、日本の平均値と変わらない数字で

す。インドネシアの首都ジャカルタでは、1日8500トン。両国と比べると経済発展がやや遅れているベトナムの首都ハノイでは、1日につき3500トン（一人当たり0.5キロ）の排出量です。

いずれの国でも、ゴミの内訳には一つの特徴が見てとれます。それは、生ゴミの割合が大きいことです。バンコクの場合だと、生ゴミが全体の54%を占めています。そしてプラスチックゴミが25%、紙ゴミが8%、繊維ゴミが4%と続きます。向こうの国の市場に行けば、この理由は一目瞭然でしょう。すさまじい量の野菜や果物、鶏や豚、魚介類が並んでいます。そして裏手には、これらの食品残渣が山と積まれています。

ところで、明治時代の小説『三四郎』を読んだら、主人公が列車から弁当箱を投げ捨てるシーンに出くわしたことがあります。100年前の日本では、ポイ捨てへの意識はずつとゆるかったようです。そして東南アジア諸国では、今もなお、あちこちでポイ捨てが行われています。フィリピンでは、雨期になると道路に水があふれ、ひどい時にはアパートの一階部分が水の底になり、移動には船が必要となります。この冠水の原因の

一つが、《ポイ捨て》だと言われています。あまりにもポイ捨てが多いため、レジ袋やお菓子の包み紙などが排水溝に詰まり、水はけがうまく機能しないからです。

《ポイ捨て禁止》の看板はあちこちに立ち、ゴミ箱は分別するようにと促しています。しかし残念ながら、ゴミ箱の中身を覗いてまわったところ、それが守られている国はほとんどありませんでした。

分別が行わなければ、リユース・リサイクルの推進もままなりません。各国の環境部門の職員は頭を痛めています。



彼らに代わってリサイクルを推進しているのは、《非公式》の部門である《ゴミ拾い》の人々です。彼らはゴミ捨て場近隣のスラム街、あるいはゴミ捨て場そのものに住み、ゴミ山の中から空き缶やペツ

トボトルなどを拾い集めて、資源業者に売却することで生計を立てています。

資源は日本と比べるとやや高い金額で買いとられているようです。2010年末に、フィリピンの資源業者にヒアリングしたところ、ビニール袋はキロ60円、ペットボトルはキロ54円、鉄くずはキロ26円、古紙はキロ4円と言います。マニラのアロマゴミ捨て場に住む青年は、一日12時間働いて、約1000円の稼ぎになる、と話していました。

《ゴミ拾い》の人々の存在は、貧困の象徴とされ、憐憫の視線を集めます。しかし、彼らが行っていることは、リサイクルの工程の一部分です。必要なのは、その仕組みをより洗練させることでしょう。



たとえば、インドネシアのバンデガン村は、非常にユニークな取組をしています。この村には、なんと《ゴミ銀行》があるのです。この銀行の窓口は「ゴミ」を持っていけば、口座に入金されるといいうのですから驚きです。

タネを明かせば、この《ゴミ銀行》は資源業者と同じことをやっています。村人が持ちこんだ空き缶やペットボトル、ビニールなどを倉庫に保管し、ある程度貯まったら売却しているのです。その利益は、持ちこんだ人に還元されます。252人が利用しているこの銀行、最も大口の顧客口座には3万8千ルピアの預金があります。日本円に換算すると約3380円で、現地では携帯電話が購入可能な金額です。大卒の初任給が約6万円ということを鑑みれば、侮れない金額を「ゴミ」を使って貯めることができたようです。

この《ゴミ銀行》は、もともと村の衛生環境を向上させるために設立されました。道にゴミが放置されれば、ハエやネズミなどが繁殖し、感染症が発生します。都市のようにトラックを巡回させてゴミを収集する予算はありません。しかし「ゴミを買いとる銀行」という触れ込みでNGOがこの施設

をオープンしたところ、「ゴミがお金になる」と人々は気づき、次第に村の通りは綺麗になりました。



一方、ベトナムには、リサイクルで豊かになった村があります。彼らは3階建ての洋風建築に住み、高級車を乗り回していました。ズオンオ村の家には段ボールが山と積まれています。家の隣に建つのは製紙工場。何をやっているかという、首都ハノイから段ボールを回収し、それを原料にして、トイレットペーパーを作っているのです。再生トイレットペーパーは、また街に運び、売却します。

特筆すべきは、ズオンオの350世帯、ほぼ全ての家庭でこの古紙リサイクルを行っていることです。一つの村が、さながら一つの工業団地になったかのようです。村全体の売上は、年間2480億ドン（約9億2300万円）にも上ります。

こうしたリサイクル村は、ベトナム北部に約90ヶ所あります。ある村ではプラスチックリサイクルを、ある村では古紙リサイクルを、そして別の村では鉄のリサイクルを、といったように、それぞれの村は、素材別に特化しています。いずれの村も、「ベトナムの地方を走っていて、豪華な住居を見つけたら、それはリサイクル村である」という報告が為されるほどに繁栄しています。

このように、東南アジアにおける大量廃棄は、非常に悩ましい「ゴミ問題」でありながら、同時に資源を格安で手に入れる「チャンス」でもあるわけです。

しかし、そのリサイクルには未成熟な面が多々あります。例えば、環境汚染。ベトナムのリサイクル村では、リサイクルの過程で出る廃液が垂れ流しにされています。その傍で人々はクーン菜を育て、地下水をくみ上げて生活しています。歴史を積みあげた日本のリサイクル業界こそが、東南アジア各国で、そのノウハウを使って活躍できる。そう、感じました。

瀬戸義章先生の著書
「『ゴミ』を知れば経済が分かる」
絶賛発売中!

春の各市環境リサイクル

イベントに参加して

当組合では、本年も、地元各市の市民の皆様とふれ合い、資源のリサイクルについて一緒に学ぶべく、各市役所主催の春の環境リサイクルのイベントに参加しました。イベント名と日時・場所は、次の通りです。

- ① 環境フェア清瀬：五月二〇日、清瀬市神山公園
- ② 西東京市環境フェスティバル：五月二十七日、西東京市いこいの森公園
- ③ 東大和市環境市民の集い：六月三日、東大和市役所
- ④ 東久留米市環境フェスティバル：六月九日・十日、東久留米市役所



環境フェア清瀬



西東京市環境フェスティバル

当組合は、各イベントで、古紙リサイクル・集団回収の推進・古紙の出し方（特に雨の日）等のパネルを展示した他、古紙の禁忌品（擦染紙・Tシャツ等に印刷するアイロンプリント紙、感熱発泡紙）点字新聞や高級のし袋等、ニオイ付の紙・洗濯石鹼や線香の箱等）と資源の持ち去り問題について、アンケート調査を実施しました。（別紙アンケート集計結果を参照。）



東大和市環境市民の集い



東久留米市環境フェスティバル

資源の持ち去り問題については、市民の皆様が関心が高く、「許せない」というご意見を多数頂きました。一方、古紙の禁忌品については、実物を見て頂いて説明すると、市民の皆様から、「初めて知った」、「良い勉強になった」という声が多かったように思います。本年九月以降の秋の環境リサイクルのイベントでも、引き続き、同様のアンケート調査を実施するなど、資源リサイクルについて、市民の皆様が率直なご意見を頂戴したいと思っておりますので、宜しくお申し込み申し上げます。

秋の環境リサイクル イベントの予定

- ① 小平市環境リサイクルフェア
九月八日（土）午前十時～午後三時
小平市中央公園・ふれあい下水道館。
- ② 清瀬市市民まつり
十月二十一日（日）午前十時～午後五時
清瀬駅北口くげやき通り。
- ③ 東村山市リサイクルフェア
十月二十一日（日）午前十時～午後二時
東村山市役所駐車場。
- ④ 西東京市市民まつり
十一月十日（土）午前十時～午後四時
十一月十一日（日）午前九時～午後三時三十分
いづれも西東京市いこいの森公園。

トイレットペーパー 「ブーメラン」について

トイレットペーパー「ブーメラン」は、一九九八年（平成十年）の製造・販売開始以来、当組合の古紙再生商品（ブランド商品）として、地元地域の皆様に購入して頂いています。

その特徴としましては、当組合の地元各市（小平市・東村山市・西東京市・清瀬市・東久留米市）の事業所や役所から排出されたオフィス古紙一〇〇％で製造されており、また、製造方法では、合成洗剤を使わずに脱墨し、塩素系及び酸素系漂白剤を一切使用しておらず、したがって、地球環境にもお尻にも優しい商品となっております。

トイレットペーパー「ブーメラン」は、現在までに、主に地元の小・中学校、市役所・公民館・図書館等の公共施設、福祉関係の施

設等に多く購入して頂いています。また、これ以外に一部の一般市民の方にも、随時購入して頂いている他、各市リサイクルフェア・市民祭等に参加し、リサイクルクイズやアンケートの景品として配布しており、詳細な内訳は、別表の通りになっています。

今後とも、当組合は、資源回収事業の遂行や、古紙再生商品（ブランド商品）トイレットペーパー「ブーメラン」の販売を通して、地元各市の市役所や市民の皆様と連携し、資源リサイクルの発展に貢献してまいりますので、宜しくお願ひ申し上げます。

なお、トイレットペーパー「ブーメラン」の注文は、当組合までご連絡下さい。販売方法は、1ケース（二〇〇ロール入り）単位で、消費税・配達料込でご提供させて頂きます。但し、配達地域は、出来るだけ地元五市区域内に限らせて頂く場合がありますので、あら

トイレットペーパー「ブーメラン」ご購入先一覧

購入先及び箇所	購入数 (単位：ケース)
小・中学校 (13ヶ所)	307
市役所・公共施設等 (24ヶ所)	449
福祉関係施設 (10ヶ所)	179
その他(一般・10ヶ所)	54
リサイクルフェア・市民祭等	49

かじめご了承下さい。



トイレットペーパー 「ブーメラン」

(65m巻き・100個入り)

1ケース3,000円(消費税・配達料込み)です。

ご注文は当組合までお願いします。

TEL : 042-395-9788

FAX : 042-395-9787

古紙の分別について、改めて確認してみませんか？

最近、現場で古紙の分別を行っている、雑紙類の中に段ボールが多く混ざっていることが目につきます。メーカーによっては、『手入れ雑誌』と言って、雑誌類から段ボールや茶紙袋を選別した規格を設けているところもあり、現場の選別ラインでは手選別で段ボールや茶紙を選り分けています。

そんなわけで、改めて、市民の皆様にご説明させて頂きたいと思えます。本誌をお読みいただいているような関心の高い市民の皆様は、『そんなことわかってるよ』とおっしゃるかもしれませんが、是非ご近所の皆様やご家族様と改めてご確認いただければと思います。

①古新聞の出し方



いわゆる新聞には、折り込みの広告チラシと一緒に出して頂いて結構です。スポーツ新聞や市報なども一緒に出して頂いて構いません。販売店で配っている新聞整理袋に入れるか、ひもで十字に縛って出して下さい。

ここで、新聞整理袋を使われる際の注意です。雨の日に濡れた靴を新聞整理袋の新聞の上で乾かして置いたりしたことはありませんか？その靴の上にお父さんが読み終わった新聞をポン、これがそのまま『出物(でも)』として選別ラインに出てきます。若しくは、おもしろに鉄アレイ、はたまた漬物石、土の付いた野菜をとりあえず、旅行中、へそくりを新聞の隙間に・・・

混ぜてしまった方も困るでしょうが、選別の現場でもこういった『出物』は困りもの。注意しましょう。

②段ボールの出し方



段ボールとは、横から見るとこのように波状の芯が貼り合わせてある紙の箱のことです。箱はつぶして頂いて、ひもで縛って出して下さい。ホッチキス、ガムテープは箱型にするための最低限の程度であれば剥がさなくても結構です。緩衝材の発泡スチロールなどは必ず取り外して下さい。宅配便の伝票(裏カー

ン紙なのでリサイクルできません。燃やせるごみにして下さい)や同封の説明書類(雑誌・雑紙としてお出し下さい)も分けて出しましょう。

冷凍品が入っている銀紙の付いた段ボール、ロウが引いてある段ボール、油染みや汚れのひどいものはリサイクルできませんので燃やせるごみにお出し下さい。また、お菓子の箱などのボール紙は『下ボール』といってダンボールではありませんので、雑紙として出して下さい。

③雑誌・雑紙の出し方



雑誌類、単行本その他、新聞でも段ボールでもないその他の紙類が雑紙になります。例えば、お菓子やおもちの箱、ダイレクトメール、コピー用紙などなど。ひもで束ねられるものはひもで縛って、細かい紙類は、紙袋か透明のビニール袋などに入れて出して下さい。冒頭申し上げたように、茶紙袋は仕分けをさせて頂いているので、それ以外の紙袋を使って頂くと助かります。(ちなみに、茶紙袋はそれだけまとめて束ねて頂くと円滑にリサイクル可能です。)

出し方の注意としては、もっとも禁忌品(製紙原料としてリサイクル出来ない紙類)が混ざりやすいのが雑紙ですので、以下、禁忌品についてご説明申し上げます。

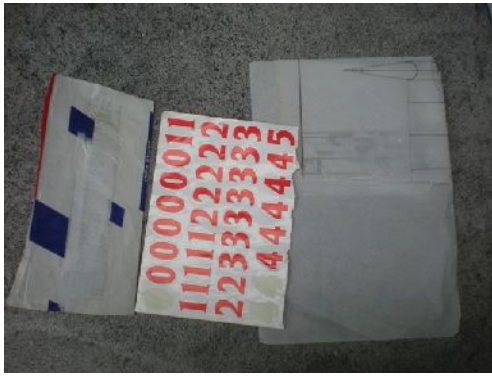
中には、**紙**マークがついていながら『製紙原料としては』リサイクル出来ない紙がありますので、ご注意ください。

「古紙に混ぜるな禁忌品！」

I. 紙でないものは取り除く
 プラスチック、木くず、カタログの中のサンプル、CDやDVDなど、紙ではないものは取り除きましょう。紙のように見えてビリッと破けないのは合成紙(選挙のポスターなど)です。これも紙ではありません。



紙ではないものは禁忌品 A 類と言って絶対混ぜてはいけません。



写真では分かりづらいですが、シールの台紙やビニール引き封筒など。

II. 水に溶けない紙・防水加工紙
 製紙の工程ではまず古紙を大量の水で溶かします。水に溶けないものは残りますからリサイクルできません。紙の端につばをつけてもんでみてください。破けてこないものはリサイクルできません。シールの台紙や防水の加工した紙です。
 ※牛乳パックは他の紙に混ぜると禁忌品になります。紙パックだけで束ねればいい資源になります。

IV. その他特殊な紙
 他にも、再生後の紙製品に様々な影響を与える紙があります。黒点や斑点の原因になるカーボン紙、金紙・銀紙、トレーシングペーパー、感圧紙（ノンカーボン複写用紙）などの特殊な紙や、臭いのついた紙（洗剤や線香の箱など）や油の付いた紙はリサイクルできません。



深刻な問題になっているアイロンプリント(上)と感熱発泡紙(下)

III. 熱に反応する紙はNG
 製紙工程では、紙をすいた後ドライヤーで乾かします。この時、熱に反応する紙が混じっていると白い紙に黒い斑点が出たりします。感熱紙（レシート・FAX用紙など）・感熱発泡紙（点字など）・アイロンプリント紙などがNGです。

④牛乳パック
 先ほど、禁忌品の中でも申し上げました通り、ほかの紙に混ぜると禁忌品になってしまいますが、それだけまとめて頂ければ最高級の古紙パルプになるのが牛乳パックです。雑誌・雑紙に混ぜて出されているのがよく見受けられますので、是非とも分けて出すようにして下さい。牛乳パックは、中身をすすいで、箱をはさみで開いてひもで縛って出して下さい。
 なお、いわゆる牛乳パックとして製紙原料になるのは、500ML以上の牛乳パックのみです（同じように見えても、紙の繊維の質



油や臭いのする紙

特殊加工した紙



や表面の印刷方法が違っていません。小さな牛乳パックはそれだけ別にして出すようにして下さい。また、この牛乳パックには、同じ防水加工つながらり、紙コップ、ヨーグルトなどの容器から、もはや紙ですらない食品トレイまで混ぜてくる場合があります。もちろん、牛乳パックとしてはリサイクルできませんので、別にまとめて出して下さい。（食品トレイは各自自治体の出し方に従って廃プラスチックや不燃ごみにして下さい。）

また、内側が、アルミ紙だったり、茶色い紙だったりする牛乳パックはそれだけ別に縛って出して頂ければ、再生できます。

というわけで、如何でしたか？ 雑紙の出し方と禁忌品に関しては、検定試験が作れそうなほどややこしい部分ではあります。ちよつと特殊な紙類で出しているものかどうか迷った場合は、遠慮なく当組合にお問い合わせ下さい。〇四二（三九五）九七八八です。公益財団法人古紙再生促進センターで作成している紙の分別と禁忌品に関するパンフレットの配布や、集団回収の団体の会合等への出張説明会も承ります。（青年部 紺野）

**日本再生資源事業共同組合連合会
第四十回東北大会開催**

七月二〇日宮城県仙台市に於いて「心ひとつにガンバローニッポン」を合言葉に、東北六県再生資源組合連合会の設営で、盛大に開催された。復興途上にも関わらず、大勢の東北組合員の方々の元気ある大会運営に感動した。全国各地域から来られた組合員の方々も東北組合員の元気ある姿に東北の復興が着実に進んでいることや、未来への意気込みを感じたようだ。

式典は第一部で東北六県連合会紺野会長と日本再生資源連合会上岡会長の挨拶ではじまり、宮城県副知事、仙台副市長、等の御来賓の方々より祝辞を頂いた。吉川専務理事から第四〇回通常総会報告後、次期開催地である近畿地区代表山原副会長の挨拶で終了した。



東北資連の紺野会長より
叙勲の祝いを受ける理事長



大会会場

第二部は記念講演が行われた。講師葉千栄東海大教授、演題「どうなる中国」という私達再生資源業者にとって大変興味のある講演を聞くことができた。内容は欧州金融不況による中国経済の落ち込みに対する中国政府の対応説明と効果の現れる時期を話された。日本の懸案事項である尖閣問題は対応を間違えると経済問題まで広がる恐れがあると心配されていた。実に中身のある素晴らしい講演だった。

翌日は大型バス二台で復興途上である津波被災地を見学した。瓦礫はほとんど処理場に移されたいたが、広い地域に人の姿はなく、風光明媚な土地に沢山の住宅が在ったと思わせるコンクリートの土台が整然とならんでいた。
海岸近くの地域では住宅はほとんど無くなっていたが、被災をなんとか免れた家屋も僅かではある

がみられた。畑の真ん中に漁船がまだあり、津波の威力をあらためて認識した。仙台市では一年後に瓦礫処理は終了するらしく、瓦礫焼却の為に海岸沿いに三機の焼却炉を新設したことで他地域より早くできたらしい。処理事業に参加している組合員の話では、市内の処理が終わるとその後は閉鎖するようである。他地域では瓦礫処理が遅れている処も有るらしく、協力すれば雇用問題解決にも繋がると話されていた。今回の研修は東多摩組合として6名参加した。マスコミ報道で認識はしていたが、現場に立つと津波の恐ろしさや強大な威力をあらためて感じた。これからまだまだ元に戻るまでの道のりは厳しいと想われるが、東北組合員ならば必ず乗り越えて以前より大きな商人に成る様に感じた。



まだ残っている瓦礫の山

コラム

わんわんつーやー

東伏見稻荷神社

西武新宿線・東伏見駅・西武柳沢駅から徒歩で約7分、朱色の鳥居が境内の緑をバックに美しく映える「東伏見稻荷神社」を今回はご紹介します。



西東京市内には2ヶ所しかない「新東京百景」に選ばれた神社であり、創建は昭和4年と比較的新しいですが、稲荷神の総本社である「京都伏見稻荷大社」分霊を勧請して創建された由緒正しい神社です。
「東伏見」と言う地名はこの神社が出来た後についた地名であり、



それに合わせて最寄駅である「東伏見駅」も「上保谷駅」から改称された経緯があります。近くには早稲田大学のキャンパスと運動場があり、あの「ハシカチ王子・斉藤祐樹君」も在学中は大きな試合の前には必ず参拝していたそうです。待機所から神殿までの廊下の一番見やすいところには彼の写真が現在でも飾られています。

お正月にはたくさんさんの初詣客で大変な賑わいを見せますが、子供の頃は参拝よりもたくさん露店に胸をときめかせた記憶があります。

場所柄普段の平日は大変落ち着いたおススメの散歩エリアになっていきます。お近くのお寄りの際は是非足を運んで見てください。(福田)

新座市野火止にある平林寺は、清瀬市街から五、六キロほどの距離のあることから私が小学校の時には野外授業や友達同士で時々遊びに行ったものでした。今では文化財として、また自然保護からきちんと管理されていますが、一九六〇年当時は裏側が山林になっていて、そこから入って、中で自由に遊んでいたような気がします。子供の頃を思い出しながら久方ぶりに平林寺を訪れてみました。表面門(総門)の通りは木立の陰が濃く反対側は竹林があり夏は涼しげです。境内に入ると散策コースの案内板があり、一キロ、一・五キロ、二・三キロコースとあつ

平林寺散策



たので一kmコースを歩くこととした。



参道正面を見ると、まず両側に仁王像が睨みかかしている山門があり、その奥に仏殿、中門と真直ぐになっており目に入った。中門からは立ち入り禁止となっており、奥が本殿となっている。中門前の参道を右側に行き鐘楼を見ながら、本殿の脇を通り、武蔵野のお面影を残す山林(一

三万坪)の中を行くと、すぐに江戸幕府の老中で川越藩主であった松平伊豆守信綱公(一六六二年没)を始めとした松平家の廟所がある。石柵に囲まれた墓



石が並んでおり、子供の頃この辺で遊んだ記憶が蘇ってきた。廟所は亡くなった当時の石碑のまま結構古く、いまさらながらよくこんな場所ですんだものだと思われた。

さらに散策コースを行くと左手にちよつとした小山が見えてくる。

焼畑の火の見張り台ではないかと言ひ伝えがある野火止塚である。さらに進み左に曲がって松やクヌギの林の中進んで行くと、もみじ山に出るが、境内はもみじの木も多く紅葉の時期も近場の紅葉狩りコースではないかと思われる。

境内には伊豆守が作らせた、野火止台地の開発に伴い生活用水を確保するために玉川上水から分水した野火止用水（伊豆殿掘）が流れている。開削の工事の指揮をとった安松金右衛門、小島助左衛門の墓が見えてくると、もうゴール真近。伊豆守が島原の乱の討伐に当たったこともあり、乱の供養塔などもあり、片割れ地蔵を左に見てゴールとなった。

境内林は国指定天然記念物となっており、また三〇種類以上の野鳥も生息しており、ちょっとした時間があれば古利と自然の癒しを味わえると思います。行ってみてはいかがでしょうか。（小畑）

平成二十四年度集団資源回収団体連絡会に参加

五月二十日に東村山市市役所北庁舎第二会議室にて「集団資源回収団体連絡会」が開催されました。

古紙センター製作の古紙リサイクルのDVDを見つけたいただき、議題に入りました。資源回収の昨年度の実績は、回収量3,124,190kgで昨年よりも

13,994kg増（対前年比0.4%増）、新規登録団体は7団体の増加となりました。今年度補助金申請、最近の古紙動向とアルミ缶のリサイクル、資源回収を楽しく進める会についての説明があり、集団回収団体の役員の皆様に対し質疑応答を行いました。質疑応答では活発な意見交換が行われ、資源物の持ち去り問題の現状及び業界が行っている対応、資源物の広報を充実させてほしいなどのご意見をいただきました。各団体の皆様のご協力により、集団回収は円滑に行われています。今後も最新の情報を提供し、より良い回収が行われていけるよう努力してまいります。



国分寺市環境を考える

市民の会が来組

去る六月一四日（木）、国分寺

市環境を考える市民の会の皆様約二〇名が来訪されました。

（株）三栄サービズにて古紙の選別と加工の過程を見学した後、組合事務所二階にて古紙の分別に関する説明会を開催することになり、青年部の紺野と水野幹事に対応いたしました。

まず、公益財団法人古紙再生促進センターが作成したビデオを見て頂きました。その後、古紙の分別や禁忌品についてご説明する予定でしたが、基本的な意識の高い市民の方々でしたので、ビデオを見ての感想や質問、意見が多数出てきました。それに対して我々業界の若手代表としてお答えするような形で進行了しました。特に紙の識別マーク

紙に関して、お互い熱くなる場面がありました。これに関しては、『製紙原料としてリサイクルできること』を示すマークではないということが納得できないのは私たち業者も同じことですので、市民の皆様の声も武器にして働きかけを行っていかなくてはと感じました。

最後に、水野幹事から最近特に問題になっている『捺染紙（アイロンプリント紙）』と『感熱発泡紙』について説明しました。サンプルを回覧して実際に見て頂きましたが、どちらもなか

なかお目にかかることが少ない紙だという印象でした。

ただ、輸入品のバッグや靴の詰め物として『捺染紙（アイロンプリント紙）』が使われたことを例に挙げ、そのサンプルも回覧したところ、『これじゃ、混ぜてもわからない』、『こういうのは普通の家庭でも出る可能性があるありますね』、『紛らわしいものは再利用しないで廃棄して欲しい』といった声が上がりました。

お帰りの際に、組合ブランドのトイレットペーパー『ブーメラン』を一つずつプレゼントしたところ、『イケメンから説明してもらってお土産までもらってありがとうございます』というお言葉を頂きました。そういうイケメンでもないと思いますが、確かに“速水もこみち”に間違えられることがよくあります。冗談はさておき、こちらこそ、勉強をさせて頂きありがとうございます。

（青年部 紺野）



説明会の模様。質問攻めにあう水野隊員。

小松市議持ち去り現場を視察

七月十二日東村山市議会議員の小松賢市議に、東村山市行政回収の車両に同乗していただき、持ち去りの現状を視察していただきました。早朝7時から、萩山町を中心に、早朝パトロールを開始。雨が降ると発生量が減り、持ち去りの車両を見つげにくく、無駄足になるかもと心配しました。

八時を過ぎた頃から、集積場所に変化が。新聞の束の大きさが路面が濡れていない場所が始めました。場も荒らされており、持ち去り行為が始まったことを確信しました。時間帯指定で入れないはずのスクールゾーンから、山ほど古紙を積んだトラックが出てくるのを発見し追跡を開始。ナンバーを確認すると、持ち去り行為を常習的に行っている車両と断定。こちらに気づき逃走。信号無視で、交差点に入られてしまい見失います。場所を変え角を曲がると、積み込みを目撃。あわててドライバーは車内に逃げ込み逃走。学生が多く細い道なので、交通事故等の二次災害を防ぐ為、無理な追跡は出来ませんでした。

見回り後、小松市議と紺野理事長が会見し、持ち去り行為中の道

交法無視、市内にある持ち去り禁止の看板の見にくさ、他の地域の古紙持ち去りの対応状況、条例の制定状況などについて話し合われました。市議から今後協力して、古紙の持ち去り問題に取り組んでいくとの約束をいただきました。お忙しい中、本当にありがとうございました。



故渡邊一史様

追悼のごとば



日興紙業商事株式会社・故渡邊一史会長様（当組合前監査役）

のご逝去に当たり 東多摩再資源化事業協同組合を代表して 謹んでお別れのごとばを捧げます。渡邊会長の突然の悲報に接したのは七月はじめのことでした。

二月に会長に就任され渡邊いつ子社長に前職を譲られてからは 健康やかな日々をお過ごしとお聞きしていただきました。お見舞いもかなわず 痛惜に耐えない思いでいっぱいです。

会長は、東京でも有数の老舗であった再生資源問屋を義父様より引き継がれ 都内で手広く営業をしておられたとのことでした。

東村山市に転出されてから組合に加盟して頂き 以来組合監査役などの要職を歴任され 地域に根ざ

したりサイクル事業に長年にわたって貢献して頂きました。

会長は 事業の改革や流通改善なども熱心に取り組まれ 特に古紙類の梱包プレス機の改良などで先駆的な功績を残されました。

常に「経営の根本は信頼にあり」と、その信念を貫いてこられた足跡は、次世代を担う業界人の貴重な教訓となっています。

誰にでも穏やかに親愛の情をもって接し 何事にも尊厳を持って臨まれた貴兄の生涯に、改めて敬服と感謝の誠を捧げます。

ここに、衷心よりご冥福をお祈り申し上げますと共にこれから資源業界の行く末を見守ってくださいますようお願い申し上げます。長い間お世話になり、ありがとうございました。

合掌

平成二十四年八月一日

東多摩再資源化事業協同組合
理事長 紺野 武郎

行事・行動

【六月】

三日：東大和市環境市民の集い

：美住RS夢ハウス祭り

五日：集団回収小委員会

六日：古紙C理事会・業務委

八日：東資協・理事会

九日：東久留米市環境FS

十一日：定例理事会

十四日：国分寺市民環境を考える会

十五日：小平RC責任者会議

十六日：日資連・理事会

十八日：財務委員会

：集団回収小委員会

二〇日：中央会・組織委員会

：青年部会議

二五日：東リ協会・理事会

二六日：集団回収小委員会

二八日：中央会・役員会

三〇日：「吉浦高志氏東資協理事

長就任」祝賀会

【七月】

二日：日資連・役員会

六日：小平RCペットB検査

：柳泉園RC納涼祭

七日：小平RC納涼祭

九日：東資協・理事会

十日：古紙C・特別委

十一日：経済産業省ヒアリング

：共同受注検査委員会

：定例理事会

十三日：集団回収小委員会

：小平RC責任者会議

十八日：東リ協会・持ち去り意見

交換会・理事会

十九日：共同受注検査

：財務委員会

二〇日：日資連全国大会

二三日：小平市廃棄物減量審

：東大和市廃棄物減量審

二四日：共同受注検査

二五日：古紙C・業務委

二六日：集団回収小委員会

二八日：日資連・理事会

二九日：組合員家族慰安会

三〇日：広報委員会

三一日：臨時理事会

【八月】

二日：共同受注検査

八日：集団回収小委員会

：東資協・理事会

十日：共同受注検査委員会

：定例理事会

十三日：広報委員会

十八日：日資連・SK委員会

二〇日：東大和市廃棄物減量審

：小平RC責任者会議

二八日：町田市持ち去りイベント

三〇日：青年部会議

【九月】

八日：小平市環境フェスタ

十日：東資協・理事会

十一日：定例理事会

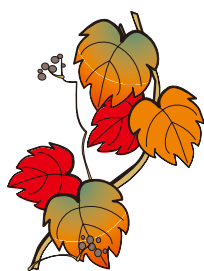
十八日：小平市廃棄物減量審

二〇日：日興紙業商事(株)・渡辺二史

前会長(前監事)を偲ぶ会

二九日：日資連・理事会

：紺野武郎氏叙勲受章祝賀会



編集後記

直言拝聴に御寄稿下さった瀬戸様、有り難うございました。今まで気が付かなかった発展途上国の資源物ビジネスは大変面白く感じました。フリリピンのゴミ山から資源物を取り出している子供達はよくTVで見ますが、貧しい姿が際立って悲しく感じていました。しかし、現実には元手の要らないビジネス少年ですね。これから分別排出が広がって行く時に、受皿になれるように頑張ってもらいたいです。研修でアジアの数カ国の古紙回収状況を観ましたが、タイの古紙は回収業者の分別意識が高く品質がとても良いように思います。今号では記事にする事が間に合わなかったのですが、永年の懸案であった古紙業界全体での「古紙持ち去り」対策が始まります。「識別シール」という、正業を営む古紙業者の車両に「stop、持ち去り」と書かれたシールが貼られます。結果、不正持ち去り業者と識別が容易に為り、不正回収古紙の流通を遮断し易くなります。並行して「持ち去り阻止条例」が国中隅々まで施行されれば撲滅に近ずき、大切な市民の財産を守る事ができます。

吉浦